

# 小山田小

2024年10月31日

7号

町田市立小山田小学校

校長 小澤 新也

042(797)1824

<https://machida.schoolweb.ne.jp/1310200>

誰もが自分らしく未来を描くことのできる学校を目指して

校長 小澤 新也

令和4年度の文部科学省の調査で、通常の学級にいる学習上・生活上で特別な支援を必要とする児童・生徒の割合は、8.8%という数値が出ました。30人の学級でいうと2～3名という人数になります。10年以上前の調査では6%という数値が出ていたので、増加傾向にあることは間違いのないようです。

また、この8.8%のうち、通級による指導を受けている児童・生徒の割合は1割程度です。少人数や個別の時間による指導が必要な現状がありながらも、支援方針を決める校内委員会の運用、人的資源の不足、保護者との連携等の課題が残っています。

町田市の掲げる特別支援教育とは「子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うこと」としています。市内全ての通常学級に、特別な教育的支援が必要な児童・生徒が在籍しているという前提に立ち、本校でもユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育活動の推進に取り組んでいるところです。

ユニバーサルデザインの視点で作られた授業とは、どの子どもも学びやすく、理解しやすい授業のことです。この視点を取り入れることで、個々の特性や学び方の違いに配慮し、子どもたち全員が快適に学べる環境を作ることを目指しています。

しかしこれは、授業中に一人一人が別の課題に取り組むということではありません。一斉指導の中でもできる合理的な配慮を取り入れるととらえています。小山田小学校で進めている具体的な工夫は次のような内容です。

## 1 学習環境の整備

- ・机の配置や座る場所の工夫
- ・集中しやすいように、黒板周りに余計な掲示物等を減らす
- ・自然光を取り入れる、室内の温度や湿度を調整する

## 2 授業の進め方の工夫

- ・授業（単元）のはじめに、1時間（単元）の流れを伝え、見通しをもたせる
- ・ペアやグループでの学びを取り入れ、主体的な学びを引き出すとともに、わからないことがあればすぐに友だちや先生に質問できる環境を整える
- ・学習のまとめなど、自分の選んだ方法で行う（選択の場面を設ける）

## 3 教材や教具の工夫

- ・黒板の文字は大きく読みやすく、色を使い分け大事なことがわかるようにする
- ・図や写真等を活用し、視覚的に理解しやすい環境を整える

## 4 ICTの活用

- ・指導者が一人一人の端末に教材を送信し、端末上で自分の考えをまとめる
- ・わからないことがあれば、自らネット検索をする等、課題解決の意欲を高める
- ・キュビナ（ドリルソフト）の活用で、一人一人の学習進度の違いに対応する

ユニバーサルデザインの視点で作られた授業が、一人一人の子どもの豊かな学びにつながるよう、今後も授業づくりの大事な視点として意識していきます。こうした積み重ねを通して、全ての子どもたちが自信をもって学び、周りの友だちと力を合わせて成長し、自分らしい未来を描くことができる子どもに育ってほしいと願っています。

